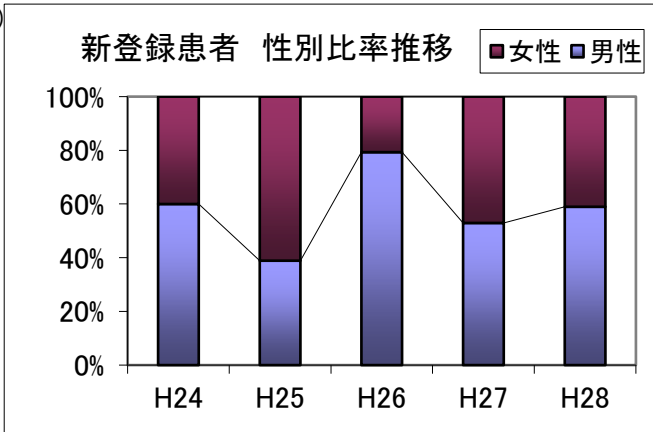


# 平成28年 結核登録者の状況

1 新登録患者数, 罹患率(表1)

区分	H24	H25	H26	H27	H28
新登録結核患者数	50	36	29	34	39
罹患率(人口10万対)	14.2	10.3	8.3	9.8	11.4
菌喀痰塗沫陽性肺結核患者数	19	15	10	15	10
喀痰塗沫陽性肺結核罹患率	5.7	4.3	2.9	4.3	2.9
65歳以上の新登録患者数	40	28	25	29	32
新登録結核患者数に占める割合	80.0%	77.8%	86.2%	85.3%	82.1%
(別掲)潜在性結核感染症患者数(初感染結核)	9	19	14	13	14

(図1)



(表1より)

平成28年新登録患者数は39名, 潜在性結核感染症患者数は14名であった。新登録患者の82.1%は65歳以上であった。

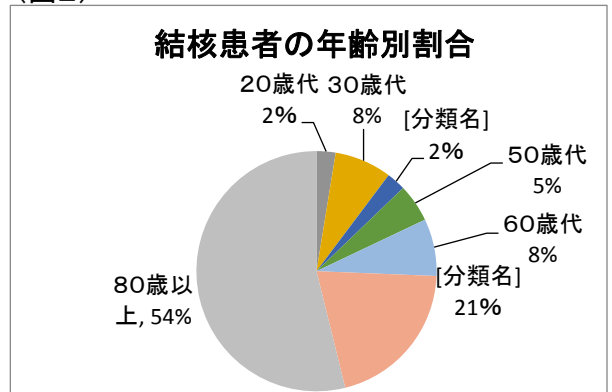
(図1より)

平成28年新登録患者性別比率は男性23名(59.0%), 女性16名(41.0%)と大きな差はなかった。

(表2)年齢別 結核罹患率

年齢区分	患者数	罹患率
9歳以下	0	-
10歳代	0	-
20歳代	1	3.5
30歳代	3	7.8
40歳代	1	2.1
50歳代	2	4.8
60歳代	3	5.3
70歳代	8	18.5
80歳以上	21	64.6
計	39	11.4

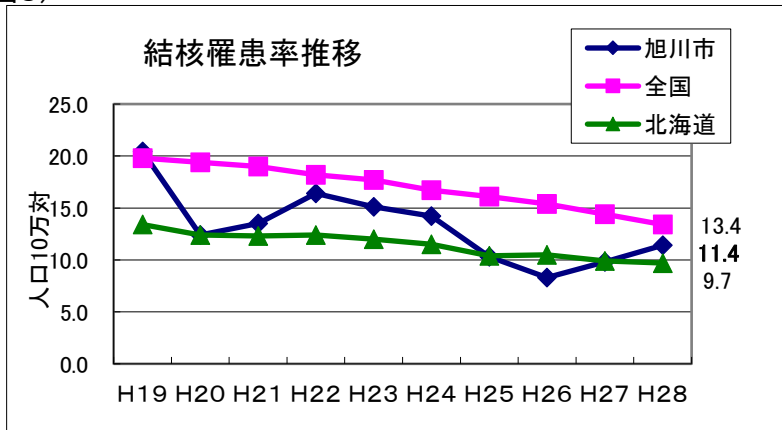
(図2)



(表2)(図2)より

新登録結核患者の年代別に見ると, 70歳代・80歳以上が全体のに占める割合は75%と高くなっている。同様に, 70歳代, 80歳以上については罹患率も高くなっている。

(図3)



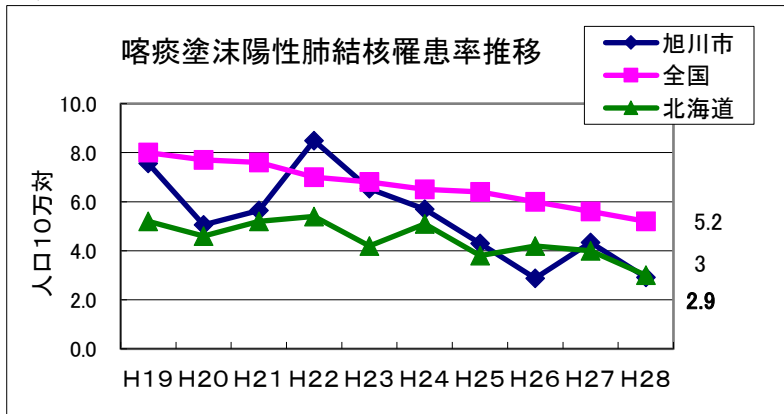
(図3より)

結核罹患率は平成22年以降年々減少し, 低まん延とされる結核罹患率10を平成26年から下回っていたが, 平成28年は11.4と高くなった。

全国, 北海道ともに年々減少しており, 比較すると, 全国よりは低い, 北海道よりは高い罹患率となっている。

※全国, 北海道の値は, 結核登録者情報調査月報報告の累計より(参考値)  
※札幌市 8.2

(図4)



(図4より)

平成28年喀痰塗沫陽性肺結核罹患率は2.9(人口10万対)で、前年4.3と比べると低くなっており、経年的に見ると減少傾向である。

※喀痰塗沫陽性肺結核:患者の痰から多量の結核菌が排出されている結核のことであり、周囲の人達への感染源となりやすい

※全国、北海道の値は、結核登録者情報月報報告の累計より(参考値)

※札幌市 2.3

## 2 結核登録者数, 有病率

(表3)

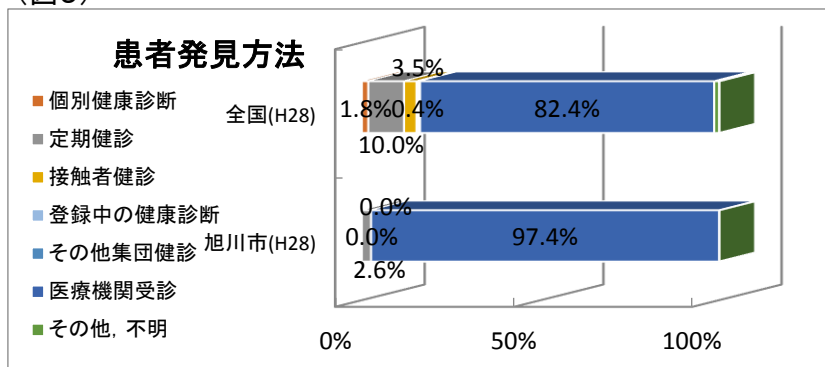
区分	H24	H25	H26	H27	H28
結核登録者数	133	106	85	78	75
活動性全結核患者数	28	27	17	30	24
有病率(人口10万対)	8	7.7	4.9	8.7	7.0
全国有病率(人口10万対)	11.7	11	10.6	9.9	9.2

(表3より)

平成28年末現在の結核登録数は75人であり、前年より3人減少した。うち、活動性全結核の患者数は24人であり、前年より6人減少している。

## 3 新登録患者結核病類

(図5)



(図5より)

新登録患者39名の発見方法は医療機関受診が38名(97.4%)と多く、定期健診は1名(2.6%)であった。

全国より、医療機関受診による発見が多い傾向であった。

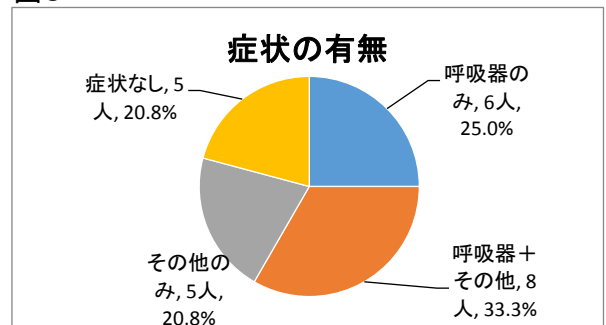
表4 結核患者分類 ※複数診断あり

病名	人数	割合
肺結核	25	54.3%
結核性胸膜炎	10	21.7%
粟粒結核	2	4.3%
他のリンパ節結核	3	6.5%
腎・尿路結核	1	2.2%
皮膚結核	2	4.3%
結核性心膜炎	1	2.2%
その他の臓器結核	2	4.3%
合計(延)	46	100.0%

(表4より)

新登録患者39名の内訳は、肺結核25名(54.3%)であった。肺外結核では、結核性胸膜炎10名(21.7%)が多かった。

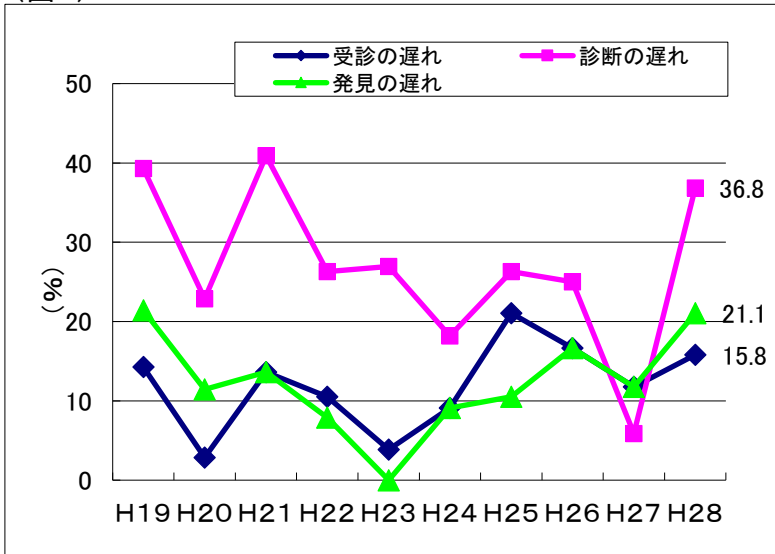
図6



(図6より)

肺結核患者24名(粟粒結核を併発している1名については肺外結核患者に分類する)のうち19名は有症状であり、呼吸器症状があったのは14名(58.3%)であった。

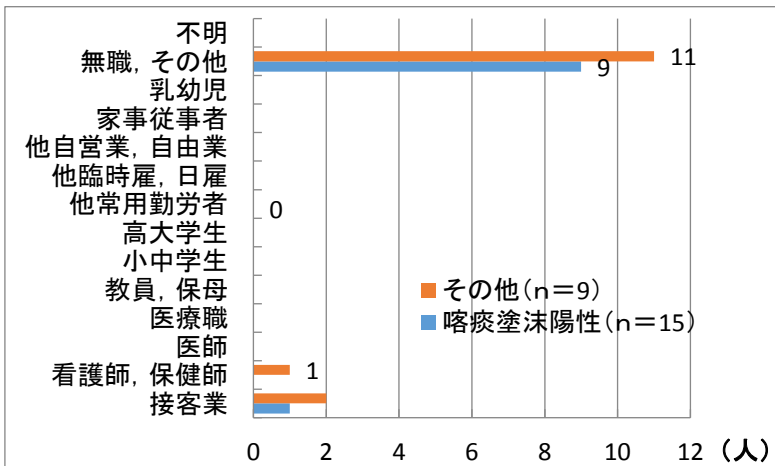
4 新登録有症状肺結核患者の発見の遅れ  
(図7)



(図7より)

平成28年有症状肺結核患者19名のうち、発病から初診までの期間が2か月以上(受診の遅れ)の者は3名(15.8%)、初診から診断までの期が1か月以上(診断の遅れ)の者は7名(36.8%)、発病から診断までの期間が3か月以上(発見の遅れ)の者は4名(21.1%)であった。全国と比較すると、受診の遅れについては、全国よりも低い割合であったが、診断の遅れ、発見の遅れについては全国よりも高い割合であった。

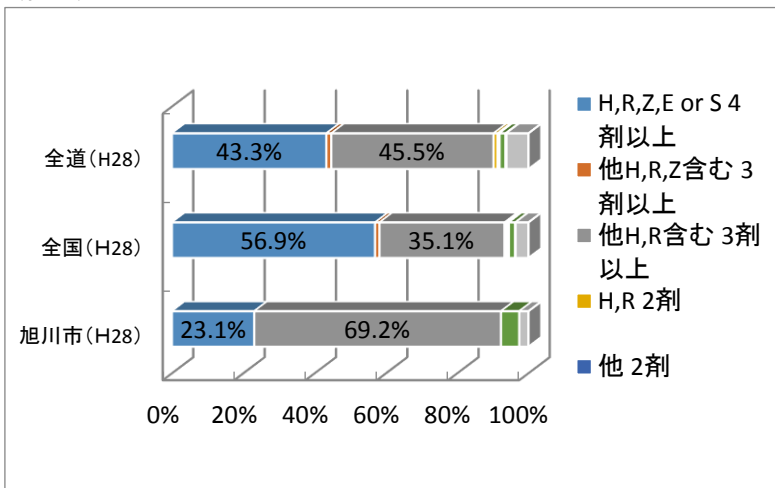
5 新登録肺結核患者 登録時職業  
(図8)



(図8より)

新登録肺結核患者24名の登録時職業は高齢者が多いため無職が20名(83.3%)と多かった。

6 新登録患者化療内容  
(図9)



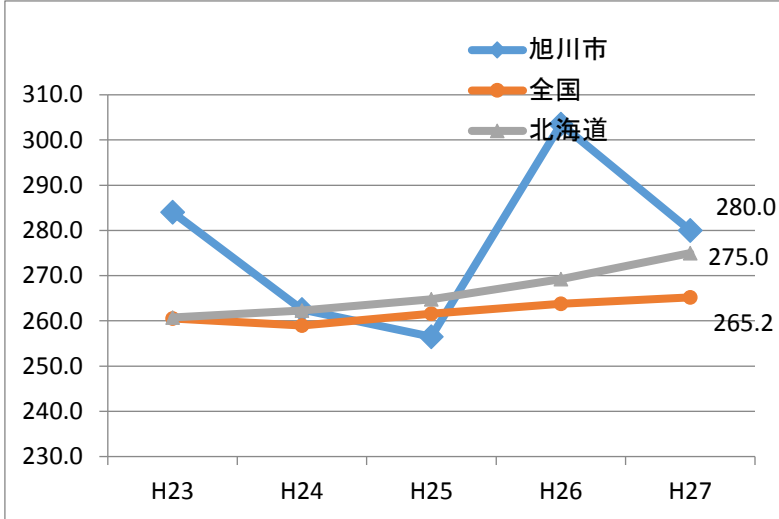
(図9より)

新登録患者39名の化療内容はH,R,Z,E or S4 剤以上使用していた者が9名(23.1%)と昨年32.4%から減少し、他H,R含む3 剤以上使用していた者が27名(69.2%)と最も多かった。患者が80才以上の割合が高く、PZAを使用できなかったことによると考えられる。尚、9割以上が標準治療となっている。

## 7 薬剤感受性試験結果

新登録菌培養陽性肺結核患者は15名のうち11名が薬剤感受性検査を実施しており、3名がINH耐性、8名はH,R,S,Eすべてに感受性があった。

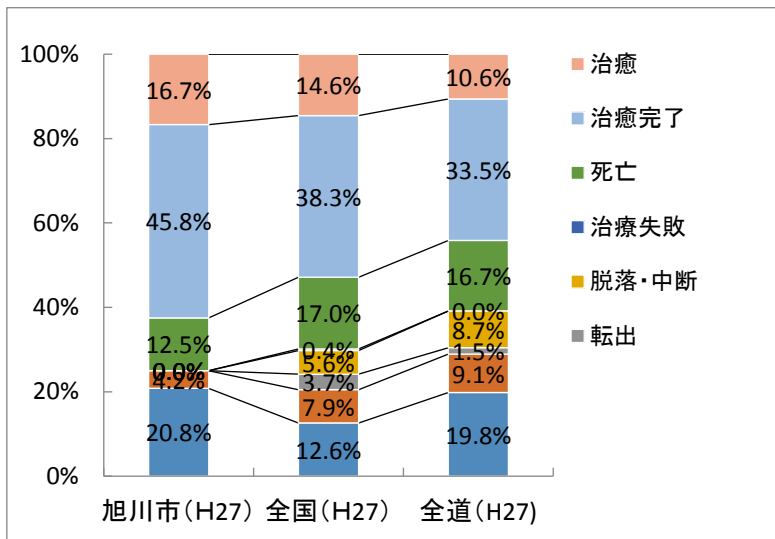
## 8 平成27年全結核治療完遂継続者治療期間中央値 (図10)



(図10より)

平成27年新登録患者の全結核治療完遂継続者治療期間中央値は280日と、前年より短くなっているが、全国・全道と比較するとわずかに長かった。これは、治療期間が長い多剤耐性結核患者が含まれていたことも影響していると考えられる。

## 9 平成27年新登録肺結核患者 コホート観察 (図11)



(図11より)

平成27年新登録肺結核患者24名のコホート観察は治癒は4名(16.7%)、治癒完了が11名(45.8%)で、治療成功は6割以上となった。

死亡が3名(12.5%)のほか、12か月を超える治療が1名(4.2%)、標準治療以外の治療による判定不能が5名(20.8%)であった。

判定不能(標準治療以外)5名の内訳は、副作用による治療中止1名、治療前に国外転出1名、死亡3名となっている。

また、治療失敗、脱落者はおらず、特定感染症予防指針の目標値である5%以下を満たしていた。